

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
日本自動車会館

電話 03(3578)3880

FAX 03(3578)3883

URL <http://www.aba-j.or.jp>

2015 **5** No.868

発行人 新地秀一 編集人 田村里志
購読料 1部50円(購読料は年会費に含む)



日 本自動車会館入館14法人で組織する日本自動車会館運営委員会(委員長=永塚誠-日本自動車工業会副会長・専務理事、事務局=日本自動車会議所)は4月17日、近隣の御成門小学校の児童を招待し、日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で日本自動車会館フォーラム「ハイブリッドカー工作教室」を開催した。当日は、自動車産業を社会科で学習する学年である5年生約50人が来館。子どもたち自身が実際に模型を作って動かすことで、環境に優しいハイブリッドカーに対する知識を深めながら、クルマの魅力やモノづくりの面白さを体験してもら

った。工作キットは、環境教育の推進に力を入れているパナソニック(株)より提供いただき、同社の協力の下、開催された。=詳細は2~3ページに掲載=

ハイブリッドカー工作教室は一昨年2月、自動車に関する情報発信の場である「くるまプラザ」の活性化を図る狙いで、当会議所が「トライアル」として実施。招待した御成門小学校の子どもたちや学校関係者に好評だったこともあり、昨年は同運営委員会により会館開設10周年の記念事業の一環として実施され、今回も会館開設を記念し、日本自動車会館フォーラムとして昨年引き続き開催された。

◆◆主な内容◆◆

- 日本自動車会館フォーラム
「ハイブリッドカー工作教室」開催 2
- 第213回会員研修会開催 4
- 5月16日、17日に「交通安全。アクション2015」開催 8
- 6月に9都県市でエコドライブ講習会を開催 8
- 6月上旬に2015年版「数字でみる自動車」を刊行予定 8

(主な記事はホームページ=<http://www.aba-j.or.jp>=にも掲載しています)

日本自動車会館フォーラム「ハイブリッドカー工作教室」開催



日本自動車会館開設記念企画

子どもたちがモノづくりの楽しさと難しさを体験

自作のハイブリッドカーを楽しそうに走らせる子どもたち

「日本自動車会館フォーラム」は日本自動車会館開設1周年を記念して行われたシンポジウムに端を発し、会館開設を記念して毎年春に開催されている。これまでは主に講演会などが行われてきたが、同会館が昨年3月に開設10周年の節目の年を迎えたことから、これを記念して日本自動車会館運営委員会が昨年4月、近隣の御成門小学校の5年生を招待し「ハイブリッドカー工作教室」を開催した。子どもたちや学校関係者に好評だったことから、今年も同校5年生の児童約50人を招待して継続開催することになり、日本自動車会館フォーラムとして4月17日に開催された。

工作教室開催に当たり、まず主催者を代表して同運営委員会広報部会の酒井明夫部会長（日本自動車連盟広報部長）が挨拶。酒井部会長は、「日本自動車会館は、自動車に関係のある団体や企業が集まっています。皆さんには、ここでハイブリッドカーを作っていただくことになっています。地球環境を守ることが大事なことは皆さんも知っていると思いますが、今日皆さんに作っていただくのは、太陽光エネルギーを使って走るハイブリッドカーです。是非、環境に優しいハイブリッドカーを作ってください」と話し、クルマ作りが成功するよう子どもたちへエールを送った。

続いて、工作教室のナビゲーターを務める、パナソニックの高橋文子さん（CSR・社会文化グループ事業推進室主事）が、「2つ以上の異なるものを組み合わせることをハイブリッドと言います。街中で



主催者を代表して開会の挨拶をする日本自動車会館運営委員会広報部会の酒井明夫部会長

実際に走っているハイブリッドカーは、電気をエネルギーとするモーターと、ガソリンをエネルギーとするエンジンの組み合わせで走っていますが、皆さんが今日作るクルマにはガソリンを入れることができませんので、太陽電池と乾電池の組み合わせで走るハイブリッドカーとなっています」と、分かりやすくハイブリッドカーの仕組みなどを説明した後、工作教室がスタートした。

パナソニックより提供いただいた工作キットは、平坦な道は太陽電池で走り、パワーが必要な坂道になると乾電池に切り替わる仕組みのもの。クルマのボディーは紙製のため、紙を折っては両面テープで貼ったり、また折ってはシールを貼ったり、小さなボルトやナット、配線留め具などで部品を結合したりと、丁寧な作業が求められる工程が連続する。子どもたちは、プロジェクターでスクリーンに映し出された工作手順を確認しながら、一生懸命に模型を

組み立てていた。それでもうまく作れない場合もあり、広報部会のスタッフら“サポーター”がひっきりなしに作業の確認や手助け、修理などに追われていた。

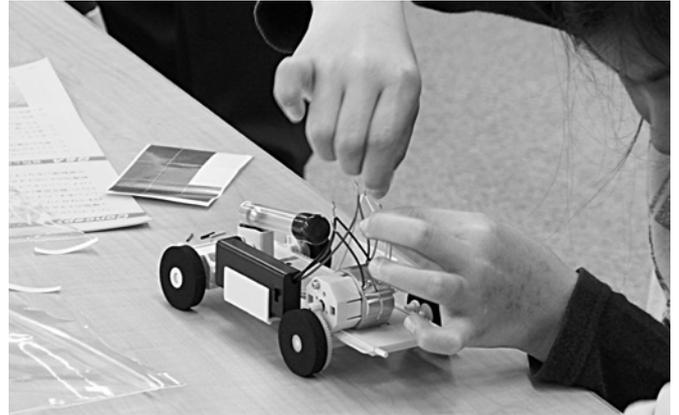
模型が完成すると、子どもたちはバッテリーのスイッチを入れて試走させていたが、順調に走るクルマもあれば、坂道で乾電池モードに切り替わらないなどのトラブルもあり、子どもたちはモノづくりの



子どもたちにハイブリッドカーの仕組みなどを分かりやすく説明するナビゲーターの高橋文子さん

楽しさと難しさを実感しているようだった。

パナソニックでは、世界中で子どもたちの夢や未来の可能性を応援する「次世代育成支援活動」に取り組んでおり、“パナソニックキッズスクール”という名称の下、主に小中学生を対象とした環境教育などの推進に力を入れている。今までにおよそ50の国と地域で約200万人の子どもたちにハイブリッドカー工作教室や出張授業などを実施している。



配線や小さなボルトなどを丁寧に取り付けながら、モノづくりの楽しさと難しさを体験



多くの“サポーター”の手を借りながら工作キットを組み立てる子どもたち



“愛車”が坂道で太陽電池から乾電池に切り替わるかどうか心配そうに見守る子ども



最後に2班に分かれて全員で記念撮影をして工作教室が終了

自動運転技術は自動車産業・社会をどう変えるのか



オートインサイト株式会社代表 鶴原吉郎氏が講演

第213回 会員研修会開催

日 本自動車会議所は4月13日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第213回会員研修会を開催し、オートインサイト株式会社代表の鶴原吉郎氏が、「自動運転技術は自動車産業・社会をどう変えるのか」をテーマに講演した。参加者は約100名。

【講演要旨】

《はじめに》

これからの自動車産業で起こる変化は「クルマの知能化」と「クルマのネットワーク化」である。この「知能化」と「ネットワーク化」は互いに深く関連しながら、今後20年の間に自動車産業、そして社会に最も大きなインパクトを与えるメガトレンドだと考える。今回は「クルマの知能化」に焦点を当て、自動運転の中長期的展望について語りたい。

1. 知能化の進展

私は、「知能化」がこれからの20年に起こる最大の革新であると考えている。クラウドコンピューティングが一般化し、センサーの進化・低コスト化が進むことなどにより、あらゆる産業が「モノからサービスへ」、「所有から利用へ」という大きな流れに巻き込まれていこう。こうした「知能化」の核心部分は、人工知能の進化である。

脳の神経細胞であるニューロン細胞のネットワークを模したニューラルネットワークを3層以上重ねたディープ・ニューラル・ネットワーク（DNN）を用いる「ディープラーニング」という技術が開発されたことで、今後人工知能の判断力は飛躍的に進化を遂げると予測されている。例えば、従来の技術では、歩行者がそこにいる、ということしか分から

なかったのが、進化した人工知能では、歩行者がこれから横断歩道を渡ろうとしているのか、もう渡り終わったのか、ということまで認識できるようになるだろう。そうなれば、自動運転技術の安全性は飛躍的に高まる。

こうした人工知能の進化は、クルマの世界のみならず、今後社会のあらゆる分野で、人間が行ってきた仕事を機械が代替することを促していくと考えられている。これまで人間の高度な判断力が必要だと見なされてきた法律、医療、会計などの分野でも、今後は、判断の部分に人工知能が活用される場面が増えるだろう。

2. 自動運転がもたらす社会の変化

自動運転の究極の姿は、クルマが人間の運転手を介さずに自律して走ること。SFのように思われる技術がすでに実用化一歩手前まで来ている。この先、自動運転技術の実用化に伴い、自動運転のクルマが社会の中で欠かせないものになっていこう。それは携帯電話がこの10年ほどの間に急速に社会に浸透し、なくてはならないものになったのと似ている。

自動運転の普及は社会の仕組み全体を大きく変えていく。現在のようにクルマを所有するという観念が薄れ、クルマは無人タクシーのようなものになるだろう。スマホで呼び出し、必要な区間だけ乗るような利用形態になれば、駐車場の心配をする必要はない。駐車場がなくなれば、住宅の居住部分が大きく取れるなど住宅環境も大きく変わるだろう。無人タクシー会社は走行コストが安い電気自動車（EV）を選択するためEVの普及が進む。さらに、自動運転車には高齢者でも子どもでも簡単に乗れ、移動時

間は車中で好きなことをして過ごせる。

自動運転車が普及することによって、クルマは自家用車から公共交通インフラへと姿を変える。地方の足の確保のために自動運転車は重要な役割を果たす。さらに、運転手が不要になるということは、そこで働いている人材が他の分野で働けるようになることを意味する。労働力不足の解消にも貢献するだろう。

自動運転がもたらすメリットを整理すると次のようなことが挙げられる。

- ①交通事故の激減
- ②交通渋滞の解消
- ③EVの普及による二酸化炭素排出量の大幅な減少
- ④少子高齢社会への対応
- ⑤物流コストの大幅な低減と人手不足への対応
- ⑥駐車場の多くが不要になることによる土地利用の効率化
- ⑦緊急時、災害時の対応の迅速化

3. 自動運転がもたらす自動車産業の変化

完全自動運転の実現で「自動車産業」の定義も変わる。これまで自動車産業の主役は完成車メーカーだったが、自動車メーカーは、単にクルマを生産するだけでなく、無人運転車両を使ったサービスを設計・提供する「サービス・プロバイダー」へと脱皮することを迫られる。これからの自動車産業の主役は、次世代モビリティインフラ企業が担うことになっていく。こうした変化に対応できるかどうか、日本の自動車産業に問われている。

自動運転の技術の開発には、自動車会社だけではなく、グーグルやアップルといったIT関連企業も取り組んでいる。自動運転車は人やモノの移動を助ける一種のロボットと言える。社会を根底から変えるのは間違いのない技術であるだけに、多くの企業がその先頭に立とうとしのぎを削っている。クルマの技術だけでなく、それを社会でどのように運用するのかということに着目し、そうした分野での可能性を探る企業も出てきている。

グーグルは検索サービスからスタートして、検索連動広告という画期的なビジネスモデルを構築した。インターネットの中心がPCだった時代は圧倒的な存在だったが、スマートフォンが増えると直接アプリにアクセスするため、グーグルの検索サービスを

使わないユーザーも増えてきた。自動運転が実現すれば、クルマにヒューマンインターフェイスが導入されて、クルマ自体が新しい情報端末となる可能性もある。そうなれば自動車がグーグルのサービスを担う「走る情報端末」となり、自動運転で広告主の飲食店や販売店に実際に連れて行くというように、リアルに誘導するようなウェブ広告以上に強力な広告ツールになるかもしれない。

グーグル、マイクロソフト、アマゾンがそれぞれハード端末を開発してきた理由は、ユーザーと接するインターフェイスを持ちたいから。このようなユーザーへのアクセスの入り口を押さえる重要性が増しており、次は自動車というインターフェイスをどう制するかという戦いになってきている。

日本のエレクトロニクスメーカーはハードウェアの開発に注力する志向が強いが、グーグルやアップルはハードウェア上で提供される広告やエンターテインメントなどのコンテンツ提供に注力する志向が強い。ソニーのウォークマンがアップルのiPodに敗れたのは、コンテンツやネットワークキングも含めたトータルでの利便性の差だ。同じことがクルマの世界でも起こる可能性がある。乗り心地がいい、加速がいいとかだけでなく、インターフェイスの使い勝手やコンテンツが重要性を増す。自動車メーカーや車載部品メーカーは、この流れについていかななくてはいけなくなるだろう。

自動運転について話をすると、自動車メーカーの社員の方から、自動運転の時代にはハードウェアとしてのクルマ自体の付加価値がなくなるのかといった質問を受けることがある。しかし、乗り心地やデザイン、静粛性など、ハードウェアとしてのクルマの性能が重要な付加価値であることは将来も変わりはない。ただ、今後はメーカーとしての立ち位置をきちんと考えないといけない時代が来る。自社はハードウェアの製造に専念して、自動運転システムや娯楽コンテンツは外部の提供を受けるという方法もある。一方で、力のある大手自動車メーカーは、車両からサービス・ネットワークまで自社で一括して手掛けようとするだろう。

ただし、垂直統合モデルであっても、どこに自分たちの強みがあって、それを最大限に生かすためにどんな戦略を取るべきかを考える必要がある。例えば、アップルは自社の強みを最大化するために、文

書やプレゼンソフトを無料で提供することで、マイクロソフトの利益の源泉である「ワード」や「パワーポイント」などのオフィスソフトの価値を無効化しようとしている。一方で、マイクロソフトはハードを安く売ること、アップルのパソコンやタブレットの価値を無効化しようとしている。自分たちの強みを最大化し、競争相手の付加価値の源泉を無効化する戦いだ。自動運転が実現すれば、自動車業界にもこうした厳しい戦いが持ち込まれるだろう。

自動運転の時代には、自動車の世界もハードウェアだけでなくサービス全体での戦いになっていく。言わば「総合格闘技」での戦いになる。IT業界の世界は、この動きで先行しており、特に米国のメーカーは自分たちが強みを持っている部分に戦いの土俵をスライドさせて、ゲームのルールを変えてしまうのが得意だ。自動車メーカーも危機感を持っているが、現状の強みが強ければ強いほど、変化に対応することの足かせになることがある。現状の延長線にはない変化への対応が求められる。

4. 自動運転実現の道のり

このように社会や産業に大きな変化をもたらす自動運転はどのような道筋で発展していくのだろうか。自動運転は次の四つの段階を経て完全自動運転に向かう、と考えている。

◇**レベル1（部分的な自動化）**：自動ブレーキ、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）、LKS（レーン・キープ・サポート）など、自動運転に関連する単独の機能を搭載

◇**レベル2（複合機能の搭載）**：自動ブレーキ、ACC、LKS、ハンドル操作の自動化など、複数の機能を組み合わせて、例えば高速道路で同じ車線を走り続けるなど、限定した条件の自動運転を実現する段階

◇**レベル3（高度な自動化）**：人間の操作はほぼ不要だが、安全の最終的な確認など、運転の責任はあくまで人間にある段階

◇**レベル4（完全な自動化）**：人間の操作は不要で、安全の最終的な確認も機械に任せている段階

このうち、レベル1（部分的な自動化）や、レベル2（複合機能の搭載）はすでに実現しつつあり、レベル3（高度な自動化）は2020年頃、レベル4（完全な自動化）は2030年頃に実用化が始まると見ている。レベル4の完全な自動化レベルが実現する

ためには、レベル3の高度な自動化レベルで十分な実績を積み、事故や渋滞が減ることが数字で実証され、システムの十分な信頼性や耐久性があることが、検証される必要がある。

完全自動運転の実用化には、技術的な課題だけでなく、法的な課題、社会的な課題が山積しており、相当な困難が伴うと見られる。しかし、社会的にも、また、個人としてもメリットが大きいと考えられるため、時期は前後しても、実現は必然だと考えられる。実際、内閣府が進める省庁横断的プロジェクトである「戦略的イノベーション創造プログラム」では、自動運転技術の開発がテーマの一つに挙げられており、限定的な条件下ではあるが、2025年以降に完全自動運転を実現することを目指している。

5. 日本の自動車メーカーに求められること

こうした完全運転自動車の開発は、日本の自動車メーカーがやらなくても、必ず誰かがやると考えねばならない。例えば、グーグル車が業績不振の自動車メーカーを買収する可能性はないのか？ グーグルブランドの携帯電話やタブレットを韓国や中国のメーカーが製造しているように、韓国や中国の自動車メーカーがグーグル社に協力する可能性はないか？ 米国で高級EVセダンを展開するテスラモーターのような進取の気性に富むベンチャーが自ら自動運転車を手がける可能性もある。あるいは、ロボット事業に参入したソフトバンクが、将来自動車事業に参入する可能性もあるだろう。異業種も含めた競争がこれから始まると考えるべきだ。

自動車産業はモノづくり立国日本の基幹産業である。それが今、この破壊的なイノベーションにさらされようとしている。モノづくりの業務プロセスは、最上流は企画、コンセプトの立案やビジネスモデルの創出であり、それから研究、開発、設計、製造、販売、アフターサービス、と下流へ向かっていく。このうち企画とアフターサービスが最も利幅が大きく、製造が一番利幅が少ない。日本のモノづくりは利幅の少ない設計、製造といった領域を得意としてきた。

しかし、この部分は新興国の攻勢にさらされており、この部分にのみこだわっては、日本は立ち行かない。例えばエレクトロニクスの分野でも、世界の製造インフラの水平分業型へのシフトを読み誤り、日本企業が得意としてきた製造品質と独自の量

産体制によって最終製品が差別化できなくなった。過去に成功したやり方にこだわりすぎてしまったからだ。モノづくりの流れを読み間違えたとも言えるし、生産設備という有形の資産を保有することにこだわったために、意思決定が遅れたということもできる。こうした失敗を自動車産業が繰り返してはならない。

これから自動車産業が自動運転という技術によって大きく変わり、社会全体も激変する。その潮流をとらえてコンセプト立案の能力を強化し、世界の潮流のイニシアチブを取れるようにする必要がある。それによって、モノづくり大国日本を再興する、自動運転はそうしたことへの絶好のチャンスでもある。

訃

報

東洋ゴム工業元社長
日本自動車タイヤ協会元会長
(当会議所会員元代表者)

片山 松造氏

東洋ゴム工業で社長、会長を務められた片山松造氏が3月26日、逝去された。82歳だった。片山氏は社長在任中の平成6年5月から平成8年5月まで日本自動車タイヤ協会の会長も務められた。



マツダ元社長
日本自動車会議所元常任理事

和田 淑弘氏

マツダ元社長で、日本自動車会議所常任理事を務められた和田淑弘氏が4月7日、逝去された。83歳だった。

和田氏は住友銀行(現三井住友銀行)の出身で、昭和58年1月に東洋工業(現マツダ)に顧問として入社。専務、副社長を経て、平成3年12月に社長に就任された。バブル崩壊で悪化していた経営の再建に尽力され、米フォードモーターとの関係強化などに取り組まれた。平成8年6月に会長、平成9年6月に取締役相談役を務められ、平成10年6月に相談役に退かれた。平成14年7月からは名誉相談役を務められていた。

会長就任後の平成8年11月には当会議所常任理事に就任され、平成9年11月まで務められた。

アイドリングストップ!!

その「ちょっと」ケイタイ!!

私たちは地球温暖化防止・CO₂の削減に取り組んでいます。

「ちょっと」コンビニ!!

「ちょっと」ケイタイ!!

「ちょっと」積みおろし!!

「ちょっと」いねむり!!

STOP! IDLING
エンジン切る習慣

一般社団法人 日本自動車会議所

交通安全啓発イベント「交通安全。アクション2015」

5月16日(土)、17日(日)に東京・江東区青海の「メガウェブ」で開催
楽しい企画が盛りだくさん!

日 本自動車会議所は5月16日、17日の両日、東京・江東区青海の複合アミューズメント施設「パレットタウン」内の「メガウェブ」で、体験型交通安全啓発イベント「交通安全。アクション2015」を開催します。両日とも午前11時～午後5時までの開催で、入場は無料。例年、春の全国交通安全運動期間にあわせて開催しており、内閣府、国土交通省、警察庁、江東区教育委員会が後援し、当会議所の交通安全委員会の構成団体を中心とする40の団体・企業が出展・参画します。

今年も「家族で広げよう 交通安全」をテーマに、家族で一緒に考え、ともに体験し、家族の絆を強めながら交通安全の大切さやルールを楽しく学べる体験型ブースを用意。また、交通安全ビンゴ大会＝写真＝や盲導犬ふれあい教室、交通安全の歌とアトラクションなど、趣向を凝らしたステージプログラムでイベントを盛り上げることにしています。高齢者でも参加できる体験型ゲームも多数あり、小さな子どもからお年寄りまで楽しめるような企画を盛りだくさん用意していますので、是非、ご来場ください。



昨年開催の「交通安全。アクション2014」の様相

イベントの詳細が分かるチラシ＝10ページ(表)、11ページ(裏)参照＝は、開催地周辺の東京都江東区および港区内の小学校に配布しました。また、参画いただく団体や企業などを通じて、各方面に広く配布されています。

6月にエコドライブ講習会

東京都など9都県市開催

首都圏で参加者を募集

東 京都など首都圏の9都県市は、6月に日本自動車連盟(JAF)、各地の自動車教習所などと連携しエコドライブ講習会を開催する。これは9都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市)が「燃費改善のコツ、個別指導します」として実施するもの。環境にやさしい運転方法であるエコドライブは、地

球温暖化防止や大気汚染防止に有効。さらに燃費が改善するとともに安全運転にもつながる。

受講者は燃費測定機と分析ソフトにより、エコドライブによる二酸化炭素の削減量や、燃費改善結果、改善すべき運転のくせなどを学ぶ。その結果、これまでの受講者は燃費が25%程度改善したという。

今回は①千葉市若葉区、②東京都品川区、③埼玉県ふじみ野市、④横浜市西区——の4会場で開催。東京会場では燃料電池車や電気自動車の試乗も予定している。参加費用は1,028円。申込多数の場合は抽選で受講者を決定する。

問い合わせ先は、9都県市首脳会議環境問題対策委員会大気保全専門部会(事務局)千葉県環境生活部大気保全課(TEL.043-223-3558)、またはJAF東京支部(TEL.03-6833-9130)。

〔東京都自動車会議所〕

2015年版『数字でみる自動車』

6月上旬に刊行予定

目 本自動車会議所は、『数字でみる自動車』の2015年版を6月上旬にも刊行する予定となりましたので、ご案内します。現在、編集作業が大詰めを迎えており、詳細は本誌6月号で紹介いたします。

『数字でみる自動車』は、国土交通省自動車局監修によるポケットブックです。自動車の保有・生産台数をはじめ、自動車に関する基礎的な統計データや資料を網羅しており、複雑な自動車の税制や環境対策などについても図表を多用して分かりやすく解説しています。また、今年4月に始まった新エコカー減税制度など最新のデータも多く取り入れているほか、参考資料として地方運輸局・運輸支局、主要自動車関連団体等の所在地や連絡先等をコンパクトにまとめるなど、情報量の充実には定評があります。

表紙には、昨年4月からJR気仙沼線BRT（バス高速輸送システム）で運用を開始し、東北の復興に向けて活躍しているe-BRTの電気バスを採用。地域社会や経済を支える交通インフラの大切さ、環境対応を強調するデザインとしました。

『数字でみる自動車』は、自動車の営業関係の方々をはじめ、自動車に関係するあらゆるビジネスに携わる方々の必携ツールとして、また新入社員の



教育用テキスト、諸会議の基礎資料としても広くご活用いただいています。

春の叙勲・褒章

元大阪自動車会議所会長・大阪トヨペット会長 横山順治郎氏はじめ 当会議所関係者多数が受章

平成27年春の叙勲ならびに褒章で、日本自動車会議所の会員団体・企業関係の多くの方々が晴れの栄誉に輝かれた。

叙勲では、元日野自動車社長の近藤詔治氏が旭日中綬章を、元大阪自動車会議所会長で大阪トヨペット会長の横山順治郎氏が旭日小綬章を、元日本自動車会議所常任理事で元特許庁長官、元日産自動車副会長の伊佐山建志氏が瑞宝

重光章を、元日本自動車会議所特別委員会委員長で元日本自動車販売協会連合会常務理事の谷合昭夫氏が瑞宝中綬章をそれぞれ受章された。

褒章では、元東レ副社長の杉本征宏氏、元日産自動車副社長の今津英敏氏、トヨタ自動車会長（元副社長）の内山田竹志氏の各氏が藍綬褒章を受章された。

みんなで参加、体験・感動イベント!!

交通安全。アクション2015 開催



= プログラムに参加して景品をもらおう! =

- ① スタンプラリーに参加し、5つ以上ブースを巡ろう!
- ② ステージ鑑賞とビンゴ大会に参加しよう!

- ・盲導犬ふれあい教室(5/17のみ)
- ・交通安全の歌とアトラクション
- ・MUJICOLOGY!(ムジコロジー) 研究所
- ・子供安全運転免許証、交通安全約束手形、その他多数用意
- 主催：日本自動車会議所
- 後援：内閣府、国土交通省、警察庁、江東区教育委員会
- 協力：(順不同)

■ 開催日：2015年

5/16(土) - 17(日)

11:00a.m. ~ 5:00p.m. (両日とも)

■ 会場：江東区青海1丁目 パレットタウン
メガウェブ MEGA WEB

アクセス：新交通ゆりかもめ『青海駅』直結 または
りんかい線『東京テレポート駅』徒歩3分

警視庁、東京湾警察署、東京都青少年・治安対策本部交通安全課、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、日本自動車車体工業会、日本自動車タイヤ協会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合、日本中古自動車販売協会連合会、日本自動車整備振興会連合会、全日本トラック協会、全国通運連盟、日本バス協会、全国ハイヤー・タクシー連合会、全国自家用自動車協会、日本損害保険協会、全日本指定自動車教習所協会連合会、全国レンタカー協会、日本自動車リース協会連合会、東京都自動車会議所、全日本交通安全協会、日本自動車教育振興財団、日本二輪車普及安全協会、日本自動車運行管理協会、自動車用品小売業協会、日本自動車研究所、日本自動車連盟、自動車事故対策機構、首都高速道路(株)、日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会、(有)広報企画、道路交通情報通信システムセンター、全国盲導犬施設連合会、日本盲導犬協会、イーティエフ(株)、(株)エフエム大阪、三井ダイレクト損害保険(株)、(株)アムラックストヨタ

デザイン：「日本自動車会館 交通安全キャンペーン ポスター原画コンテスト2014」優秀賞受賞 竹永絵里さんの作品

交通安全。アクション2015

= 開催プログラム 及び スタンプラリー台紙 兼 会場配置図 =

●ステージイベント



- ・おはたれいこの歌とアトラクション
- ・盲導犬ふれあい教室
- ・ジャンボかるた大会
- ・交通安全ビンゴ大会 等を予定



●体験イベント「交通安全スタンプラリー」……… 各ブースの体験イベントに参加！ スタンプを5個以上集めて



すてきな景品をもらおう！

スタンプラリー
スタート&ゴール
(台紙配布&
景品交換場所)

総合受付

ステージ

Goal
景品交換済

<p>④交通安全約束手形</p> <p>スタンプ ④</p>	<p>③子ども安全免許証</p> <p>スタンプ ③</p>	<p>②おでかけバンダ</p> <p>スタンプ ②</p>	<p>①ライディングシミュレータ 取付免許試験にチャレンジ</p> <p>スタンプ ①</p>
<p>⑤俊敏性測定コーナー</p> <p>スタンプ ⑤</p>	<p>⑥てんけんくんめりえ</p> <p>スタンプ ⑥</p>	<p>⑦自動車運転 適性診断</p> <p>スタンプ ⑦</p>	<p>⑭飲酒疑似体験 ウォーキングゲーム</p> <p>スタンプ ⑭</p>
<p>⑧首都高パトロール隊</p> <p>スタンプ ⑧</p>	<p>⑨反射材体験</p> <p>スタンプ ⑨</p>	<p>⑩マジックダーツ/ 盲導犬ふれあい広場</p> <p>スタンプ ⑩</p>	<p>⑪白バイ搭乗体験</p> <p>スタンプ ⑪</p>
<p>⑫自転車シミュレータ</p> <p>スタンプ ⑫</p>	<p>⑬交通ルール違反 撃退射的ゲーム</p> <p>スタンプ ⑬</p>		

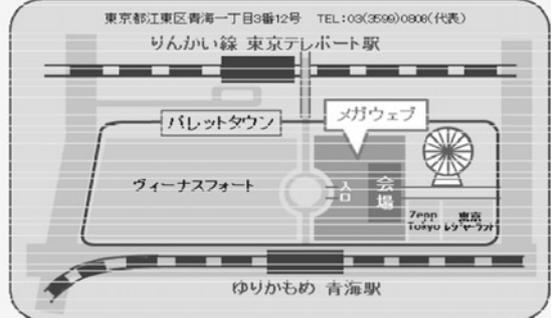
●タイムテーブル

※プログラム内容及びスケジュール等は、変更になる場合がありますので予めご了承ください。

プログラム	時間	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
オープニング/ スタンプラリー紹介	11:00~	■						
ステージイベント	おはたれいこの歌とアトラクション		■			■		
	ジャンボかるた大会			■				■
	交通安全ビンゴ大会				■			■
MUJICOLOGY! (ムジコロジー)研究所	15:15~ 15:30					■		
スタンプラリー	11:00~17:00	■	■	■	■	■	■	■
自動車なんでも相談	11:00~17:00	■	■	■	■	■	■	■

●会場アクセス

新交通ゆりかもめ青海駅直結、りんかい線東京テレポート駅徒歩3分



あい しゃ どう
愛 車 道 (255)

胸の痛みに耐えかねて

先だって、妙に心臓がドキドキするという状態が何日か続いた。

能天気にも「ひよっとすると恋でもしているのかしらん」そう思って胸に手を当てて色いろ考えてみたが、どうも思い当たる節がない。

そこで、日頃お世話になっている病院に行ってみることにした。すると、「それでは心電図をとりましょう」そう言われて検査書類を片手に長い廊下をトボトボ歩いて検査室に行く。測定は20分ほどで終了し、検査結果は後ほどということで、指定された日に再度病院を訪れる。波形グラフの測定結果をみた医師は「これで見える限り異常はありませんが、念のために心臓のレントゲン撮影と日常生活24時間の心電図を記録することにしましょう」ということになった。

「何だかエライことになってきたなあ」心電計の端末を体のあちこちに取り付けられながら、そんな思いと共に少々不安を抱いたのだった。

やがて訪れた判決の日、ひと通り検査結果に目を通した医師は「これといった異常は見当たりません」とボソリと言った。この言葉に、思わず胸を撫で下ろした。すると、あのドキドキ感は何だったのだろうか？

それから数日後には、心臓の違和感は雑巾で拭い去ったかのように、きれいに消えてしまった。

そこで個人的にこれを^{ことば}寿ぎ、暫らくは清貧生活者にしては分不相応な少し高めの缶ビールを“プシュン！”と開けて祝ったのだった。今では空を見上げながら「あれは単なる杞憂であったのか？ それとも神様からの何かのメッセージであったのか？」と、首をかしげている。



人間の心臓はクルマで言えばエンジンということになるだろう。日頃ハンドルを握っている愛車の心臓に少しでも違和感があれば、躊躇なく整備依頼をするに違いない。道路走行中に“プスン”といって動かなくなったらエライことになる。運が悪ければ交通事故という事態を引き起こしかねない。何はともあれ、クルマのドクターである整備士の診断を受ければ、適切なアドバイスと処置を施してくれるのは言うまでもない。周知のように、医師と同様に自動車整備士も国家資格を有する技能者たちである。これを取得するには熟練した整備技術と豊富な知識がなければならない。

それにしても、あのときのドキドキが、いっそ恋しいであったのなら、どんなに楽しかったことだろう。

(モーターコラムニスト 牧 博明)

日本自動車会議所会員(平成27年5月1日現在)=順不同=

- 一般社団法人 日本自動車工業会
- 一般社団法人 日本自動車部品工業会
- 一般社団法人 日本自動車車体工業会
- 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
- 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
- いすゞ自動車販売店協会
- トヨタ自動車販売店協会
- 日産自動車販売協会
- UDトラック販売協会
- 日野自動車販売協会
- 三菱自動車販売協会
- 三菱ふそうトラック・バス販売協会
- 全国スバル自動車販売協会
- ダイハツ自動車販売協会
- 全国マツダ販売店協会
- 全国フォード販売店協会
- スズキ自動車販売店協会
- ホンダ自動車販売店協会
- 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
- 日本自動車輸入組合
- 一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
- 一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
- 一般社団法人 日本自動車機械工具協会
- 公益社団法人 全日本トラック協会

- 公益社団法人 全国通運連盟
- 公益社団法人 日本バス協会
- 一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
- 一般社団法人 全国自家用自動車協会
- 一般社団法人 日本損害保険協会
- 石油連盟
- 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会
- 一般社団法人 全国自動車標板協議会
- 一般財団法人 自動車検査登録情報協会
- 一般社団法人 全国レンタカー協会
- 一般社団法人 日本自動車リース協会連合会
- 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
- 一般社団法人 自動車公正取引協議会
- 全国自動車検査登録印紙売捌人協議会
- 一般財団法人 関東陸運振興センター
- 一般社団法人 東京都トラック協会
- 一般社団法人 神奈川県トラック協会
- 一般社団法人 日本道路建設業協会
- 一般社団法人 日本ゴム工業会
- 一般社団法人 日本塗料工業会
- 板硝子協会
- 日本自動車車体整備協同組合連合会
- 一般社団法人 日本交通科学学会
- 一般社団法人 日本陸送協会

- 一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
- 一般財団法人 日本自動車研究所
- 一般社団法人 日本自動車機械器具工業会
- 一般財団法人 日本自動車査定協会
- 一般財団法人 全日本交通安全協会
- 公益財団法人 日本自動車教育振興財団
- 一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
- 全日本自動車部品卸商協同組合
- アイ・ティ・エスジャパン
- 公益社団法人 自動車技術会
- 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
- 一般社団法人 自動車再資源化協力機構
- 一般社団法人 自動車用品・部品アフターマーケット振興会
- 一般社団法人 自動車用品小売業協会
- 一般社団法人 日本オートオークション協議会
- 日本中古車輸出業協同組合
- 全国オートバイ協同組合連合会
- 日中投資促進機構
- 一般社団法人 青森県自動車団体連合会
- 一般社団法人 岩手県自動車会議所
- 一般社団法人 宮城県自動車会議所
- 一般財団法人 秋田県全自動車協会

- 山形県自動車団体連合会
- 一般財団法人 福島県自動車会議所
- 東京都自動車会議所
- 一般社団法人 神奈川県自動車会議所
- 一般社団法人 静岡県自動車会議所
- 一般社団法人 愛知県自動車会議所
- 一般社団法人 岐阜県自動車会議所
- 一般社団法人 三重県自動車会議所
- 一般社団法人 富山県自動車会議所
- 一般社団法人 石川県自動車会議所
- 一般社団法人 福井県自動車会議所
- 一般社団法人 大阪自動車会議所
- 一般社団法人 徳島県自動車会議所
- 一般社団法人 香川県自動車会議所
- 愛媛県自動車会議所
- 高知県自動車会議所
- 一般財団法人 大分県自動車会議所

(ほかに企業会員84、推薦会員3)